



荒野に希望の灯をともす  
〜 医師・中村哲 現地活動35年の軌跡〜

EMBRACING THE ARTICLE 9 OF THE JAPANESE CONSTITUTION



アレン・ネルソン

9条を抱きしめて  
〜元米海兵隊員が語る戦争の真実〜

ナレーション

森山 良子

企画制作

アレン・ネルソン平和プロジェクト

中村哲

5/30 (土)

13:30-15:00

(開場 13:00)

アレン・ネルソン

5/30 (土)

15:30-16:45

(開場 15:00)

中軽井沢図書館  
2階 多目的室

軽井沢町長倉3037-18 中軽井沢駅

いい映画を観よう実行委員会では、今後も上映会を  
続けていきたいと考えています。

お手伝いくださる方を随時募集しています。

集会、地区公民館、お店等での出張上映会もいた  
しますので、お気軽にご相談ください。

主催：いい映画を観よう実行委員会 090-8042-6572

入場無料

カンパのご協力をお願いします。  
ペシャワール会への寄付と、チラシ代  
等の経費に使わせていただきます。

定員50名様

当日先着 10名様  
ネット予約 40名様

駐車場は 町営 中軽井沢駅前駐車場(中軽井沢駅 東側)をご利用下さい。  
開館中に図書館カウンターへ駐車券を持参し、無料券をお受け取りください。

インターネット予約・詳細情報

<https://goodmovies.show-room.jp>



# アレン・ネルソン



## ストーリー

真の戦争とは、平和とは何かを語り続けた、アレン・ネルソンさん。ベトナム戦争に従軍した元アメリカ海兵隊員です。帰還後、過酷

な戦場体験によるPTSD（心的外傷後ストレス障害）に苦しめられたアレンさんは、18年に及ぶ治療の末立ち直ります。

沖縄での米兵による少女暴行事件をきっかけに、1996年から日本での講演活動を開始。その数は13年間でのべ1200回を数えました。アレンさんが日本での講演に力を入れた最大の理由は、憲法9条との出会い。9条に平和への希望を見出しました。

アレンさんは、2009年にベトナム戦争で浴びた枯葉剤が原因とみられる血液のガンで亡くなります。62歳でした。戦争に苦しめられた彼は、最後まで戦争が原因で命を落とすことになりました。

アレンさんが亡くなった後も世界で戦火が絶えることはありません。戦争という殺戮に関わった一人として、アレンさんは、命が尽きるまで戦争や暴力の恐ろしさを訴え、人間が平和に生きていくための道筋を優しくも力強く示し続けました。

2025年製作（75分）



## 森山良子さんからのメッセージ

戦後80年。今、日本自体が戦争というものの肌感がなくなっている中、とてもショッキングな映画だと思いました。敵味方では

なく、地球上に授かった一人一人の大切な命が無残に奪われていくことに、常に悲しみと怒りを感じています。たくさんの方々に、どれほど戦争が残酷な現実をはらんでいるかを観ていただきたい。

## 監督・阿部裕一

1958年生まれ。読売テレビ在職中、沖縄戦の悲劇を描いた『戦場の子供たち』や原爆をテーマにした『かあさんと呼ばたい』『5000人のカルテ』など多数のドキュメンタリー番組を制作。放送文化基金賞優秀賞、関西ディレクター大賞、坂田記念ジャーナリズム賞グランプリなどを受賞。今回の映画のもとになるDVD『9条を抱きしめて』も制作した。

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。

NGO平和医療団日本（PMS）を率いて、医療支援と水路の建設を行ってきた。

活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、一貫していたことだ。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきた。

いま、アフガニスタンに建設した水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。

しかし、2019年12月。水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらした。

だが、一方で私たちに強く問いかけもする。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか。

中村哲が遺した文章と200時間に及ぶ記録映像をもとに、現地活動の実践と思想をひも解く。



荒野に希望の灯をともす  
〜医師・中村哲 現地活動35年の軌跡〜

2022年制作//カラー//90分  
(株)日本電波ニュース社